

## 演題 日本・中国関係史 (私の個人的見解と解釈)

講師： 土 屋 侯 保

### 1. はじめに

(本日の講演内容はあくまでも土屋侯保の個人的見解・解釈であり、その内容には諸説がある場合もあります)

### 2. 日本が理想の国、あるいは重要な隣国として付き合い、

(仏教や儒教などを) 学んだ中国

- ① 卑弥呼、聖徳太子、仏教伝来、遣唐使 など
- ② 儒教(四書五経など)を頂点に日本が学ぶべき国だった中国

### 3. その対中国史観の変遷

- ① 蘭学を学ぶ日本人の対中国観の変化  
『蘭学階梯』の序文(萩野信敏)から読み解く
- ② 明治維新後と、先の大戦後の対中・対日観の変化

### 4. 国交回復以降の日中関係

- ① 日中国交回復は田中角栄(と周恩来など)の業績
- ② そもそも日本と中国の関係は?(孫文や宮崎滔天ほか)
- ③ 胡耀邦総書記による3000人交流など改革開放の時代
- ④ 天安門事件以降の私の対中認識

### 5. 私の日中友好運動への関わり

- ① 神奈川県日中友好協会の常任理事と青年部長だった時代
- ② 胡耀邦総書記の失脚で友好運動から離れた私

### 6. これからの日中関係、私の思い